

福井のまちづくりを考える

- 住民と商業者によるくらしの創造をめざして -

コーディネータ 小川雅人（福井県立大学地域経済研究所、
基調講演 小川雅人 まちづくり・中小企業経営）
シンポジスト 本多昭一（福井大学教育地域科学部、建築・まちづくり）
浅井 光（（株）まちづくり福井 常務取締役）
前川和美（チャレンジショップ経営者
フラワーショップ リュミエール）
木本茂樹（ガレリア元町商店街協同組合 青年部長）

市民公開シンポジウムの企画と参加の呼び掛け

2004.2.6 支部事務局長 小倉久和

日本科学者会議福井支部は支部結成32周年を迎えました。32周年記念事業として、福井のまちづくりをテーマとして、市民公開シンポジウムを開催します。コーディネータの小川先生は、まちづくり・中小企業経営の指導の専門家・実践家として、全国各地でまちづくり・商店街の活性化に直接かかわってこられた方です。本多先生も、建築家として全国各地のまちおこし・まちづくり運動にかかわってこられました。他のシンポジストの方も福井のまちで実際に活動されてきている方々で、強い主張を持っておられます。本多先生によれば、上からの行政主導の「都市計画」に対するアンチテーゼとしての下からの「まちづくり」ですが、いまでは行政側も「まちづくり」という言葉を使うようになっています。商店街を形成している経営者が、地域の住民や消費者が、そして、行政が、それぞれが智慧を働かせ、福井のまちが住みよいまちとなるにはどうすればよいのか、考えていきたいと思います。

私が福井の街に住むようになって15年になりますが、振り返ってみると、大きく変わった、という印象がありません。たとえば、この5年あまりの間に大和田地区は大きく変貌しました。しかし、福井の街の状況は基本的には変わっていない気がします。福井に来る前、私は別の地方都市に10年近く住んでいました。その街の中心部にはかなりの規模のアーケード付き商店街があり、休日にはかなりにぎわっていて、私もしばしばでかけました。2年ほど前に久しぶりに彼の地を訪れました。その商店街は1つのブロックがまるごと変わっていきなり大きな変貌を見せていましたが、それでも商店街の雰囲気は以前の延長にあるような気がしました。福井に初めてきたとき、こういった商店街がほとんどみんな1つ屋根の下にあるのに驚きました。ピア、ベル、アピタ、……。大和田のコパも似たようなコンセプトです。そして悪いことに、車がないと大変不便です。しかも、商店街と文化施設が完全に断ち切られているのです。この状況はいまでも変わっていません。下馬の図書館や美術館はバスでは大変不便ですし、音楽堂もそうです。大和田地区も車がないとかなり不便です。

昨年開催した支部例会で、10月に本多先生、11月には小川先生に、まちづくりをメインテーマにしてそれぞれ講演して頂きました。本多先生は、まちづくりにおける住民運動・大衆運動とそこにおける専門家の役割を柱に、各地のまちづくりの事例と21世紀のまちづくり運動の展望についてお話しされました。小川先生は、中小企業経営とまちづくりの専門家の目から見て、福井の中小企業が元気になるためにはどういう視点が必要なのか、具体的に分析して頂きました。まちづくりのリーダを育てることの重要性を強調されていたのが印象に残っています。これらの例会で、行政主導でなく住民の立場から、商業者が自分たちの力で、地域住民を巻き込んで、行政の積極的な支援を得て、まちづくりに取り組むことが重要であることを認識しました。

本シンポジウムに、多くの関心ある方々の参加を呼び掛けます。